

先進医療の実績報告について

令和6年度（令和5年7月1日～令和6年6月30日）実績報告より

先	－	1	－	1
6	.	1	2	.
				5

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和6年6月30日現在）	27種類	49種類	76種類
② 実施医療機関数（令和6年6月30日現在）	396施設※1	109施設※1	449施設※2
③ 全患者数	175,505人	1,764人	177,269人
④ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約798.2億円	約10.7億円	約809.0億円
⑤ 先進医療費用の総額	約113.0億円	約6.5億円	約119.5億円
⑥ 総金額（④＋⑤）	約911.1億円	約17.3億円	約928.4億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑤／⑥）	12.4%	37.7%	12.9%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

※3 ④～⑥の費用については小数点2桁以下を四捨五入している。

先進医療の実績報告について

令和6年度（令和5年7月1日～令和6年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和5年6月30日現在）	28種類	53種類	81種類
② 新規承認技術数	2種類	5種類	7種類
③ 保険収載技術数	2種類	2種類	4種類
④ 実施取り下げ技術数	－	7種類	7種類
⑤ 削除技術数	1種類	－	1種類
⑥ 先進医療技術数（令和6年6月30日現在）	27種類	49種類	76種類
⑦ 総括報告書受理数	－	6種類	6種類

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	全医療費のうち先進 医療及び旧高度先 進医療分の割合
令和2年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※1	R1.7.1～R2.6.30 (12ヵ月)	83	252施設	5,459人	約99億円	約37億円	約62億円	62.6%
令和3年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R2.7.1～R3.6.30 (12ヵ月)	83	267施設	5,843人	約103億円	約41億円	約62億円	60.2%
令和4年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※2	R3.7.1～R4.6.30 (12ヵ月)	83	428施設	26,556人	約151億円	約85億円	約67億円	44.1%
令和5年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R4.7.1～R5.6.30 (12ヵ月)	81	477施設	144,282人	約765億円	約664億円	約101億円	13.2%
令和6年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※3	R5.7.1～R6.6.30 (12ヵ月)	76	449施設	177,269人	約928億円	約809億円	約120億円	12.9%

※1 令和2年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 令和4年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※3 令和6年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

【先進医療B】
令和6年6月30日時点における先進医療に係る費用
 令和6年度実績報告(令和5年7月1日～令和6年6月30日)

先－１－１(参考資料2)
 6 . 1 2 . 5

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平 均 入院期間 (日)	年 間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
1	1	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	平25.8.1	5,318,957	4,386,407	※	3	3
2	2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	平26.1.1	-	-	-	0	-
3	4	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	平28.1.1	-	-	-	0	-
4	5	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	平28.1.1	1,962,405	850,369	3.1	7	4
5	7	ゲムシタビン静脈内投与、ナブ－パクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	平28.10.1	4,964,020	373,700	※	1	1
6	8	術後のカベシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平29.4.1	7,650,249	3,626,339	17.6	7	6
7	9	S－Ⅰ内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	平29.4.1	26,764,959	4,690,234	22.5	17	10
8	10(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(陽子線治療を実施する施設)	平29.6.1	26,784,624	20,800,000	6.7	13	7
9	10(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)(外科的治療を実施する施設)	平29.6.1	-	-	-	0	-
10	11	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	平29.8.1	-	-	-	0	-
11	12	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平30.2.1	77,716,495	628,820	0.3	396	35
12	14	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	平31.2.1	490,456	490,456	※	4	1
13	15	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	平31.3.1	8,236,341	8,049,461	※	10	2
14	16	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	平31.4.1	41,709,932	28,316,302	34.7	7	1
15	17	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	令1.7.1	1,970,952	1,499,372	17.0	1	1
16	18	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild－Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	令1.8.1	-	-	-	0	-
17	19	ブロープ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	令1.11.1	26,480,338	11,757,270	0.4	134	5
18	20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	令2.1.1	-	-	-	0	-

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平 均 入院期間 (日)	年 間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
19	21	イマチニブ経口投与及びベムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.2.1	23,277,675	19,669,625	5.7	6	4
20	22	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	令2.2.1	-	-	-	0	-
21	24	周術期デュラルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	令2.3.1	224,894,443	181,901,927	12.4	19	10
22	25	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	令2.4.1	-	-	-	0	-
23	26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.6.1	-	-	-	0	-
24	27	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	令2.11.1	255,447,759	67,583,166	21.8	124	14
25	28	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	令3.1.1	-	-	-	0	-
26	29	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	令3.2.1	161,374	14,544	※	1	1
27	30	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	令3.3.1	17,811,179	86,749	63.0	2	2
28	31	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、 TENT上に位置するものに限る。)	令3.4.1	21,019,843	19,965,743	※	5	4
29	32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	令3.7.1	-	-	-	0	-
30	33	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであって、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	令3.9.1	34,237,679	21,693,000	36.8	9	3
31	34	テネクテプラゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	令3.9.1	138,130,539	5,661,019	18.8	48	15
32	35	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	令3.12.1	45,692,680	324,481	1.4	180	20
33	36	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	令4.4.1	2,200,395	2,008,463	4.0	1	1
34	37	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	令4.4.1	113,703,554	184,869	22.9	184	3
35	38	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.5.1	29,236,174	9,166,845	16.0	49	10
36	39	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.5.1	-	-	-	0	-
37	40	自家臍島移植術 慢性膵炎(疼痛を伴うものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令4.7.1	5,084,940	1,330,000	28.0	1	1
38	41	タクロリムス経口投与療法 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床又は妊娠に至っていない患者に係るものに限る。)	令4.8.1	15,518,033	9,545,653	※	57	4
39	42	ネシツムマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	令4.9.1	48,173,913	43,622,185	0.9	19	9
40	43	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	令4.9.1	7,941,194	2,692,000	35.0	1	1

整理 番号	告示 番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平 均 入院期間 (日)	年 間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
41	44	術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	令4.10.1	76,198,406	27,469,147	5.2	57	17
42	45	自家濃縮骨髓液局所注入療法 特発性大腿骨頭壊死症(非圧潰病期に限る。)	令4.12.1	9,144,807	1,499,567	7.5	8	2
43	46	アモキシシリン、ホスホマイシン及びメロニダゾール経口投与並びに同種糞便微生物叢移植の併用療法 潰瘍性大腸炎(軽症から中等症までの左側大腸炎型又は全大腸炎型に限る。)	令5.1.1	33,573,130	31,122,296	0.4	26	3
44	47	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	令5.2.1	30,882,360	22,754,500	3.0	34	1
45	48	着床前胚異数性検査 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。))が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	令5.4.1	362,934,286	97,475,200	※	332	4
46	49	生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	令5.7.1	-	-	-	0	-
47	50	タミバロテン経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 切除が不可能な膵臓がん(二種類の従来の治療法に抵抗性を有するもの又は薬物療法が困難なものに限る。)	令6.4.1	562,920	71,179	10.0	1	1
48	51	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	令6.5.1	-	-	-	0	-
49	52	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん	令6.5.1	-	-	-	0	-
50	53	脂肪組織由来の多系統前駆細胞を用いた歯周組織再生療法 重度歯周炎(従来の歯周組織再生療法ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	令6.6.1	-	-	-	0	-
合 計				1,725,877,011	651,310,888		1,764	206

※入院例なし

【先進医療B】

令和6年6月30日時点における先進医療の

先－１－１（参考資料３）
6 . 1 2 . 5

終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

整理 番号	告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 （再掲）	終了予定日 （※1）	計画時患者 数 （※1）	登録症例数	協力医療 機関数	年間実施件数 （令和5年7月～令和6年 6月までの実績） （再掲）
1	1	インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫（症候を有するくすぶり型又は予後不良 因子を有さない慢性型のものに限る。）	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	平25.8.1	令8.3.18	38	38	17	3
2	2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26.1.1	令8.5.25	225	187	12	－
3	4	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫（初発時の初期治療後に再発又 は増悪したものに限る。）	杏林大学医学部付属病院	平28.1.1	令7.11.10	146	146	30	－
4	5	ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片（増 殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。）	国立大学法人富山大学附属病院	平28.1.1	令8.12.31	40	31	9	7
5	7	ゲムシタビン静脈内投与、ナブーパクリタキセル静脈内投与及びパ クリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28.10.1	【導入相試験】 令2.3.9 【探索相試験】 令6.9.9	【導入相試 験】6～18例 【探索相試 験】35例	【導入相試 験】12例 【探索相試 験】28例	5	1
6	8	術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併 用療法 小腸腺がん（ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉 眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断され るものに限る。）	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平29.4.1	令15.5.8	115	115	21	7
7	9	S－1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併 用療法 膵臓がん（遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うもの に限る。）	関西医科大学附属病院	平29.4.1	令9.5.31	180	134	30	17
8	10(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん（初発のものであり、単 独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、か つ、十二センチメートル未満のものに限る。）【陽子線治療を実施す る施設】	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令13.12.19	72	71	7	13
9	10(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん（初発のものであり、単 独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、か つ、十二センチメートル未満のものに限る。）【外科的治療を実施す る施設】	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令13.12.19	248	233	18	－
10	11	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用 療法 全身性強皮症（ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド 以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。）	九州大学病院	平29.8.1	令5.7.31	12	12	0	－
11	12	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（ステー ジがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に 切除されたと判断されるものに限る。）	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平30.2.1	令11.11.30	880	882	35	396
12	14	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不 全（慢性維持透析が困難なものに限る。）	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	平31.2.1	令14.6.30	42	0	6	4
13	15	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑 うつエピソード	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院	平31.3.1	令11.3.31	96	36	2	10

整理 番号	告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者 数 (※1)	登録症例数	協力医療 機関数	年間実施件数 (令和5年7月～令和6年 6月までの実績) (再掲)
14	16	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部付属病院	平31. 4. 1	令11. 12. 31	20	20	0	7
15	17	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	湘南鎌倉総合病院	令1. 7. 1	令9. 6. 30	16～20	2	0	1
16	18	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild－Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	令1. 8. 1	令9. 7. 23	45	11	0	－
17	19	プローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立がん研究センター中央病院	令1. 11. 1	令7. 7. 17	250	248	4	134
18	20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	令2. 1. 1	令7. 3. 31	9～12	9	2	－
19	21	イマチニブ経口投与及びペムブロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令2. 2. 1	令8. 10. 31	22	13	7	6
20	22	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2. 2. 1	令6. 3. 31	15	8	0	－
21	24	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター東病院	令2. 3. 1	令13. 8. 31	79	54	20	19
22	25	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令2. 4. 1	令6. 9. 30	200	201	2	－
23	26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令2. 6. 1	令8. 12. 31	20	20	0	－
24	27	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2. 11. 1	令9. 3. 31	400	124	13	124
25	28	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん (切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令3. 1. 1	令8. 12. 31	14	3	0	－
26	29	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	令3. 2. 1	令7. 10. 31	22	13	4	1
27	30	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3. 3. 1	令9. 2. 28	24	10	8	2
28	31	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、 TENT上に位置するものに限る。)	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	令3. 4. 1	令9. 3. 31	10	10	3	5
29	32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	令3. 7. 1	令11. 7. 18	12	1	4	－

整理 番号	告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者 数 (※1)	登録症例数	協力医療 機関数	年間実施件数 (令和5年7月～令和6年 6月までの実績) (再掲)
30	33	シスプラチン静脈内投与及び強度変調陽子線治療の併用療法 頭頸部扁平上皮がん(喉頭がん、中咽頭がん又は下咽頭がんであつて、ステージがⅡ期(p16陽性中咽頭がんに限る。)、Ⅲ期又はⅣ期のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令3. 9. 1	令10. 4. 30	75	30	4	9
31	34	テネクテプラーゼ静脈内投与療法 脳梗塞(発症から四・五時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令3. 9. 1	令9. 3. 31	226	159	16	48
32	35	アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	京都府立医科大学附属病院	令3. 12. 1	令10. 9. 30	200	182	20	180
33	36	自己骨髄由来培養間葉系細胞移植による完全自家血管新生療法 閉塞性動脈硬化症(血行再建術が困難なものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	東京医科大学病院	令4. 4. 1	令9. 3. 31	50	2	0	1
34	37	ラメルテオン経口投与療法 悪性腫瘍(六十五歳以上の患者に係るものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令4. 4. 1	令9. 2. 28	766	661	2	184
35	38	反復経頭蓋磁気刺激療法 うつ病(急性期において当該療法が実施された患者に係るものであって、薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院	令4. 5. 1	令9. 3. 31	300	53	17	49
36	39	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	令4. 5. 1	令8. 3. 31	25	0	0	-
37	40	自家臍島移植術 慢性膵炎(疼痛を伴うものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立国際医療研究センター病院	令4. 7. 1	令9. 3. 31	10	3	3	1
38	41	タクロリムス経口投与療法 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能的な不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床又は妊娠に至っていない患者に係るものに限る。)	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター	令4. 8. 1	令7. 3. 31	26	23	3	57
39	42	ネシツムマブ静脈内投与療法 切除が不可能なEGFR遺伝子増幅陽性固形がん(食道がん、胃がん、小腸がん、尿路上皮がん又は乳がんに限る。)	名古屋大学医学部附属病院	令4. 9. 1	令8. 3. 31	22	22	8	19
40	43	生体肝移植術 切除が不可能な肝門部胆管がん	熊本大学病院	令4. 9. 1	令13. 8. 31	20	3	9	1
41	44	術前のゲムシタピン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除が可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)	東北大学病院	令4. 10. 1	令12. 1. 4	400	144	19	57
42	45	自家濃縮骨髄液局所注入療法 特発性大腿骨頭壊死症(非圧潰病期に限る。)	順天堂大学医学部附属順天堂医院	令4. 12. 1	令9. 3. 31	34	8	1	8
43	46	アモキシシリン、ホスホマイシン及びメトロニダゾール経口投与並びに同種糞便微生物叢移植の併用療法 潰瘍性大腸炎(軽症から中等症までの左側大腸炎型又は全大腸炎型に限る。)	順天堂大学医学部附属順天堂医院	令5. 1. 1	令7. 3. 31	37	34	3	26
44	47	集束超音波治療器を用いた前立腺がん局所焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	東海大学医学部付属病院	令5. 2. 1	令13. 11. 30	310	34	0	34

整理 番号	告示 番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者 数 (※1)	登録症例数	協力医療 機関数	年間実施件数 (令和5年7月～令和6年 6月までの実績) (再掲)
45	48	着床前胚異数性検査 不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者(届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む。)が染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)	大阪大学医学部附属病院	令5. 4. 1	令10. 3. 31	PGT-A実施 集団383人、 胚移植実施 集団153人	375	3	332
46	49	生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	京都大学医学部附属病院	令5. 7. 1	令14. 9. 24	23	0	9	－
47	50	タミバロテン経口投与及びペムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 切除が不可能な膵臓がん(二種類の従来の治療法に抵抗性を有するもの又は薬物療法が困難なものに限る。)	名古屋大学医学部附属病院	令6. 4. 1	令8. 12. 31	12	1	0	1
48	51	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限局性のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	令6. 5. 1	令9. 19. 31	65	1	1	－
49	52	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道表在がん	北海道大学病院	令6. 5. 1	令10. 4. 30	54	0	3	－
50	53	脂肪組織由来の多系統前駆細胞を用いた歯周組織再生療法 重度歯周炎(従来の歯周組織再生療法ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	大阪大学歯学部附属病院	令6. 6. 1	令11. 3. 31	30	0	0	－

※1 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(令和6年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

【先進医療A】
1年間(令和5年7月1日～令和6年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

先	—	1	—	2
6	.	1	2	.
				5

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和4年7月～令和6年 6月までの実績 (実施可能であるすべての 医療機関の実績)※
4	末梢血単核球移植による血管再生治療	三重大学医学部附属病院	患者の病変の状態が比較的安定していたため	今後も患者の病変の様子を注意深く観察していく。	0件
9	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査	医療法人松寿会 天保山内科	新型コロナの流行が継続し、またインフルエンザとの同時感染の疑いがあつたときは、抗原検査でなんとか乗り切った。患者数が多く、時間的制約があつたためインフルエンザだけをPCRで測定して確定させる時間的余裕がなかったため、院内での検査を行わなかった。	唾液を用いたインフルエンザAとBの体外診断薬はまだ国の認可を受けたものはないが、インフルエンザA型とB型および新型コロナを同時に検査する認可を受けたキットが存在するので、新型コロナ禍が収まるまではこの認可キットを用いて検査を行う予定である。今後新型コロナの検査が必要なく、インフルエンザを唾液を検体として検査する必要が生じたときは、この検査法を使用する予定である。	0件
		埼玉医科大学病院	対象となるインフルエンザ患者の流行が小規模にとどまり、本検査の適応となる入院患者、もしくは合併症を伴う患者が皆無であった。さらに、新型コロナウイルスの流行がはまだ継続しており、新型コロナウイルスを含む多項目同時核酸検査(FilmArray)によるインフルエンザウイルスの同時検出が汎用されていることから、本検査のニーズは限定的であつたと考える。	新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、インフルエンザの流行について、いまでも予測が困難な状況である。引き続き、いつでも診療ニーズに対応できるよう、体制維持に努めたいと考えている。	
		鹿児島大学病院	インフルエンザの流行はあつたが、インフルエンザによる入院患者がなく検査の実施事例がなかったため	今シーズン以降、流行に応じて実施する予定	
		真生会富山病院	検査技師の人数が不足しており、実施することができなかった。	技師の人員を補充できず、再開の見込みが立たず、令和5年12月7日付で取り下げした。	
		浜松医療センター	スティックスバイオテックから診断試薬としてSGNP nCoV/Flu PCR 検出キットが発売されたため。	SGNP nCoV/Flu PCR 検出キットへの移行が検討される。	
26	血中循環腫瘍DNAを用いた微小残存病変量の測定	慶應義塾大学病院	慶應義塾大学医学部倫理委員会承認後、施設内の検査の流れ、患者登録手順などの調整に時間を要し、2024年6月より登録を開始したため当該期間の登録例数は0例であつた。	登録開始後、すでに2例が登録されており、今後さらなる登録患者増加が見込まれている。	—

※「-」は昨年度未実施の医療技術

【先進医療B】
1年間(令和5年7月1日～令和6年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和4年7月～令和5年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
2	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	該当しない。	0件
4	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	杏林大学医学部付属病院	2022年4月に患者登録を終了した。本報告期間において、当院の「保険外併用療養費の対象患者」は治療終了などの理由によりいない。	当院では保険外併用療養費の対象患者の治療をすべて終了し、現在追跡期間中である。また本試験は2022年4月に患者登録を終了している。	5件
11	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	予定されていた被験者登録、自己末梢血幹細胞移植および観察期間も完了したため。	現在、データ固定、および総括報告書作成を進めている。	1件
18	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	当試験に該当する症例がなかったため。	病院ホームページや広報誌への掲載を増やすなどして、患者さんへの周知徹底を図る。	1件
20	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立小児総合医療センター	症例登録期間終了となったため	現在、総括報告書作成中である。	4件
22	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了したため	登録期間は終了しているため、該当なし。	0件
25	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌がん、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	2022年3月に症例登録が終了したため	該当しない。	0件
26	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	登録期間が終了したため該当なし	該当しない。	7件
28	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	本先進医療で用いる特定細胞加工物を製造していた企業(株式会社テラ)が令和4年8月に倒産したことに伴い、患者登録を一時中断していたため。	新たな受託先を選定し、TIL製造の技術移転が終了したため、患者登録を進める。	0件
32	自家骨髄単核球移植による血管再生治療 全身性強皮症(難治性皮膚潰瘍を伴うものに限る。)	横浜市立大学附属病院	本医療技術に適切な症例がみられなかったため。	各実施機関の近隣の医療機関に本医療技術を周知するとともに、学会等による研究者間の交流を通じて広く患者紹介を呼びかけ、症例の集積に努める予定である。	1件
39	セボフルラン吸入療法 急性呼吸窮迫症候群(従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	神戸大学医学部附属病院	該当するARDS患者が入室しなかったため。	多施設研究とする。また適応を拡大することも考えている。	0件

告示 番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和4年7月～令和5年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
49	生体肝移植術 切除が不可能な転移性肝がん(大腸がんから 転移したものであって、大腸切除後の患者に係るものに限る。)	京都大学医学部附属病院	候補症例として複数件紹介はされているものの、肝移植の適応基準 に該当せず、登録には至っていない。	外科学領域、消化器内科領域、移植外科領域に関する全国学会で 本臨床試験に関する発表を、ランチョンセミナーも含めて積極的に 行っているところである。 今後は、肝胆膵領域や移植関連の学会だけでなく、大腸癌の学会 や内科系の学会にも積極的に参加し、JCOGの班会議、医師会主 催の研究会など、可能な限り発表の機会を利用して、周知活動を続 けていく。 なお、2024年6月のASCO(国際腫瘍学会)において、切除不能大腸 癌肝転移に対して肝移植が化学療法より有意に予後を改善したこ とが、多施設共同研究・RCTの結果として報告され、主に腫瘍内科 領域に大きなインパクトを与えている。この発表を契機に、腫瘍内 科から問い合わせが相次いでいるところであり、今後は症例の紹介 が増えることが期待される。	0件
51	経皮的前立腺がんマイクロ波焼灼・凝固療法 前立腺がん(限 局性のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	候補患者は複数名いたが、適格基準に合致しない症例や、適格基準 に合致するが患者の手術希望の日程等により報告期間内(2024年5 月1日～2024年6月30日)では0件だった。	現在、実施予定症例があり、8月中には実施見込みである。今後の 症例登録状況により、泌尿器科ホームページで被験者募集の掲示 や、関連病院へ先進医療の情報提供を行い、紹介受診などの協力を 得ることを検討する。	-
52	アルゴンプラズマ高周波焼灼・凝固療法 切除が不可能な食道 表在がん	北海道大学病院	先進医療技術審査部会での承認が得られ試験開始が可能となったの は2024年5月であり、実質上の組入期間は短く、当該期間において は、該当する患者がいなかったため。	本先進医療ならびに臨床試験が当施設において行われている旨 を、関連施設に継続的かつ反復して周知し、該当患者の集積を図 る。	-
53	脂肪組織由来の多系統前駆細胞を用いた歯周組織再生療法 重度歯周炎(従来の歯周組織再生療法ではその治療に係る効 果が認められないものに限る。)	大阪大学歯学部附属病院	本年は6月1日から先進医療を開始したが、実施責任者および実施者 の変更や追加があり、関連する文書の改訂に時間を要した。また、東 北大学病院での先進医療実施に向けて、東北病院の担当者との打ち 合わせにも時間を要した。上記の2点の理由から、現時点では実施件 数が0件である。	現在、当院で上記の基準に適合する患者のリクルートを行い、現時 点では、3名の患者に対して、本医療の内容説明を行い、今後、同 意取得を予定している。2024年度には、上記3名の患者に対して、 脂肪組織採取を行い、脂肪組織由来多系統前駆細胞の単離を行 い、同細胞の移植を完了する予定である。また、東北大学病院を協 力医療機関として登録するための臨床研究実施計画書の変更等を 特定認定再生医療等委員会に審査依頼する準備を進めている。	-

※「-」は昨年度未実施の医療技術